

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 21 日付

江原道の野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出 (野生いのしし 87-88 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=XucDbkEjQF0rvCzoCMkLq3Ez.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1201290&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）広域フェンスの中で発見された猪死体 2 個体で ASF ウイルスが検出されたと 1 月 21 日明らかにした。

死体は 1 月 20 日華川邑（ファチョンウプ）豊山里（プンサンリ）山で環境部捜索チームによって発見された。華川郡（ファチョンゲン）は ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 21 日死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）では 10 件の野生いのししの ASF 陽性事例となり、全国的には 88 件になった。

定員化国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全部広域フェンスの中で発見された。この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性があるため、捜索を徹底している"と話した。

以上